

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 理科2科目で100分

解答問題数 大問3題

解答形式(医学部選択問題 2, 4, 6)

記述式, 描図式

分量・難易(前年比較)(医学部選択問題 2, 4, 6)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

※2022年度医学部選択問題との比較

出題の特徴(医学部選択問題 2, 4, 6)

グラフを描かせる問題が今年度も出題された。

その他トピックス(医学部選択問題 2, 4, 6)

なし

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
2	記述式 描図式	力学 (水平面と円筒面をもつ台と小球の2体問題)	物理基礎 物理	問5までは台が固定されている典型的な問題ゆえ、確実に点をとりたい。問6から問8は動く台と小球の典型例な問題。問8では、曲面を降りるときにも、問7で求めた力積を受けることを考えると容易に解ける。	やや易
4	記述式	電磁気 (磁場中を動く導体棒による電磁誘導)	物理	問3から問7は電子の運動に注目する問題。式変形を含めて、問題の状況をきちんとおさえ、丁寧に進めたい。なお、 $n$ は単位長さあたりの電子の個数を表す。また、 $c$ の符号にも注意。問8以降は動く導体棒とコイルの問題。棒が単振動する。誘導はついているが、類題をやったことがないと難しかっただろう。なお、問11はエネルギー保存則から考えれば、すぐに見抜ける。	標準
6	記述式 空所補充	波動 (屈折・反射の法則, フェルマーの原理)	物理	A 問1から問4は、見かけの長さの問題。屈折の法則と図形的考察、近似をうまく扱えばよい。問3では、臨界角を考えるとよい。 B 誘導に沿って丁寧にやっていけばよい。(力)では、近似式を使い、式をうまくまとめる必要がある。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

標準的な内容の問題を、確実に解答できるようにしておこう。物理的内容を正確にイメージできるようにしておきたい。医学部選択問題はやや難しい問題や、近似式を使う問題、計算式が煩雑な問題も出ており、試験時間に対して問題の分量が多い。やや高度な内容でも、基本に立ち戻って考え、きちんと解答できるように練習しておこう。また、速く正確な計算力を養っておくこと。